

議会報告

■第2回定例議会・一般質問(平成24年6月15日)

仮設住宅での孤立化防止対策について

質問：阪神淡路大震災の教訓（仮設住宅での孤独死が2年間で120人を超え、10年間で500人であった）から、孤立化防止対策が急がれ、これからはますます重要になってくる。本市は、昨年6月より民間に委託して、絆支援員による戸別の訪問活動を通じた見守り事業に取り組んできた。長期化するにつれ、現場の状況や課題を認識し、更なる支援拡充を求める。

答弁：更なる支援策として、仮設住宅にお住まいの一人暮らしの高齢の方等を対象に生活支援システムを導入するなど、きめ細かな取り組みに努め、被災された方の生活再建を支援してまいりたい。

質問：本市の見守り事業の財源が国の緊急雇用創出事業を活用しているが、単年度でなく長期で安定的な運営ができるよう検討すべきではないか。

答弁：財源の確保は重要な課題。安定した長期的な取り組みが可能となるよう新たな制度の創設なども含め、今後、国に対し強く要望してまいりたい。



観光客や地元住民の安全を守る対策強化について

質問：昨年の10月30日に地元の念願であった秋保と山形県を結ぶ「二口林道」が12年ぶりに開通した。そのことにより、交通量が増加した県道仙台山寺線の歩道の整備に力を注ぐべき。歩道整備計画の進捗状況と歩行者の事故防止対策について伺う。

答弁：現在、秋保温泉地区において事業を実施している約1100mの区間のうち、約900mの区間で歩道整備が完了。残り約200mの区間は、平成25年度の完成予定を目指している。さらに、秋保温泉地区の西側は、現在の道路敷地を有効利用し、歩行者が安全に通行できるスペースを確保する対策を今年度より実施することとしており、引き続き、歩行者の安全な通行の確保に努めてまいりたい。

その他 緑ヶ丘4丁目の宅地支援について

■健康福祉委員会（平成24年6月20日）

神戸市では、阪神淡路大震災での孤立化防止対策として、復興公営住宅内に地域包括支援センターの拠点を設置して見守り事業に取り組んでいる。また、復興公営住宅にシルバーハウジングを導入している。本市においても、このような取り組みを検討すべき。

これから整備される復興公営住宅の見守り事業について、民生委員の配置の見直しや、相談窓口の設置、24時間体制の工夫など、関係部局としっかり協議して頂きたい。

*シルバーハウジング：高齢者世帯が地域社会の中で自立し安全で快適に生活できるように、住宅内の段差解消や緊急通報システム等の設備と、在宅生活を支援する生活援助員を配置した市営住宅。



活動レポート



■村井県知事への要望

7月6日に公明党宮城県本部として6度目の「東日本大震災からの復旧・復興に関する要望書」を提出しました。

■街頭演説

日頃の議員活動、議会報告などを街頭からご挨拶をさせて頂いています。

この日は、社会保障と税の一体改革関連法案で民主・自民・公明の3党合意について「日本の社会保障の現状を踏まえ、将来にわたって安定充実した社会保障制度の実現を考えれば、反対だけの議論では、課題の先送りであり無責任である。消費税増税先行に景気対策や低所得者対策などを盛り込み、歯止めをかけたこと。」を訴えました。



6月27日仙台市太白学校給食センター前